

半促成メロンの活着期の昼温管理

県農業試験場 そ菜部(現、農研センター農産園芸研究所野菜部)

研究のねらい

半促成メロンの生育は、地域によって差があり、また個人間の差も大きい。このような生育差を生じる原因には色々のものが考えられるが、特に、定着後の活着の早晚が与える影響が大きいと思われる。活着の早晚には定植直後の昼温管理の影響が大きいいため、定植直後14日間の昼温管理と活着の早晚及び接ぎ木の有無と活着の早晚について検討し、適正な昼温管理技術を確立する。

研究の成果

1. 定植直後の昼温管理が活着の早晚に大きく影響するため、定植直後約14日間の昼温管理について検討した。
2. 昼間の温度と地温とは、密接な関係があり昼間を高温管理するほど高い地温が確保され、昼温を25~30℃に管理すると地温は15~17℃となり、35℃の場合は約20℃、40℃では21~23℃となった。
3. 活着の早晚には、接ぎ木の影響も大きく、新土佐1号による接ぎ木栽培では活着は順調で高温ほど生育は優れた。
4. 自根栽培では、概して、昼間の温度30℃までは活着が遅延した。したがって、昼間の温度は最低35℃を確保することが望ましく、接ぎ木栽培より高めに管理する必要がある。
5. 以上から、活着期の昼間の温度管理は接ぎ木栽培では25℃あればよく、自根栽培では最低35℃は保つ必要がある。
6. なお、露地メロンタイプは、接ぎ木栽培が生育、収量で優れ有望であるが、ハウスメロンタイプでは、接ぎ木により上物率が低下するため、自根栽培が望ましい。

ハウスの 昼温管理		気温	25~30	35	40
		地温	15~17	20	21~23
露地 メロン タイプ	プリンス	自根 接ぎ木	~		
	キンショウ	自根 接ぎ木	x x ~		
ハウス メロン タイプ	デリシール	自根 接ぎ木	x ~		~
	キング メルティ	自根 接ぎ木	x ~	~	~

(凡例) 順調 やや遅延 遅延 x 甚だしく遅延 x x 枯死

図 昼温管理と活着の早晚